

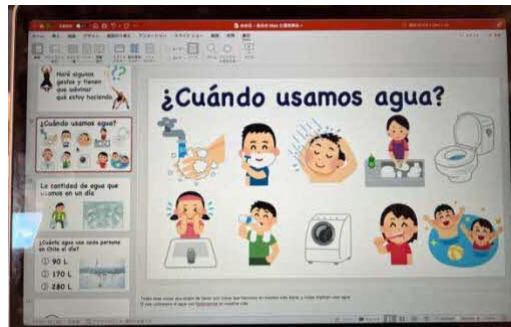


世界水の日



3月22日は国連が定めた「世界水の日」。今回はそれにちなんで小学校に「水の大切さ」をテーマにした話をしに行ってきました。

私が住むコキンボ州という地域では、数十年前から長い間雨が降らない干ばつに見舞われており、それが原因で深刻な水不足に陥っています。幸い私は問題なく水を使うことが出来ていますが、市中心部から離れた地域では上水道の設備が十分整っていない、水源が枯れているなどの理由で給水車頼りの生活を送っている家庭も少なくありません。またこの干ばつは地域の主要経済である農業にも被害をもたらしていて、作物の栽培に必要な水を確保できず農業を続けることを断念してしまう人も出てきています。そのため市民にとって水は非常に関心の高いテーマの一つです。



30年前（写真上）と現在（写真下）の任地の川の様子。
現在は水が完全に干上がっています。

そんな中、今回地元の小学校で水を題材にした授業をさせていただきました。その中で子どもたち伝えたことは次の三つです。①普段私たちは水を頻繁に使っていて、生きていくためには水が必要不可欠なこと。②チリでは1人1日当たり平均170リットルの水を消費していること。③世界的な人口の増加や気候変動の影響によって私たちは利用可能な水を少しずつ失っていること。そして最後は身近にできる節水方法について紹介しました。

今回の授業を振り返ると、話の内容は特別子供たちの興味や関心をそそるものではなかったと思います。ただ、相手の反応がどうであったにしても自分の伝えたい想いやメッセージは子供たちに届けることが出来たのでそこに関しては満足しています。

ごみ問題でもそうですが子供たちの意識や行動をすぐには変えることは難しいです。そのため今回の様に根気強く伝えていくことが大切だと思います。この地道な積み重ねがいつか彼らの意識・行動を変えるきっかけになることを願いながらこれからもメッセージを届けていきたいです。